

意向調査

1. 調査内容

太陽光発電の導入を進めるためには、市民の太陽光発電設置に係る出資等への関心の程度を把握することが必要であることから、淡路島在住の市民を対象に太陽光発電に係る意向調査(アンケート調査)を実施した。

(1) 調査項目

調査項目は、回答者自身に関する項目と市民共同発電所への関心に関する項目の2項目とした。調査項目(質問項目)の概要は表 0.1 に示すとおりである。

表 0.1 アンケート質問項目

質問項目	質問内容
I. ご自身について	問1 年齢、性別
	問2 家族構成
	問3 家の造り
	問4 太陽光発電設置の有無
	問5 太陽光発電設置時期等 (1)設置時期 (2)太陽電池出力 (3)年間売電額 (4)年間売電量
	問6 太陽光発電設置の予定 (1)今後5年以内に設置の有無 (2)太陽光発電を設置しない理由
II. 市民共同発電所について	問7 市民共同発電所への興味の有無
	問8 市民共同発電所について (1)出資してもよいと考える利率・金額 (2)配当の還元方法について (3)配当の一部を設置施設に寄付することについて

(2) 調査対象

調査地域は、再生可能エネルギー導入が進められている淡路島とし、淡路島在住の市民を対象者とし、自治会等を通じて全世帯にアンケートを配布した。

(3) 調査時期

意向調査は表 0.2 に示す時期に実施した。

表 0.2 意向調査実施時期

項目	団体名	淡路市	洲本市	南あわじ市
配布日		12月5日	12月10日	12月1日
提出期限		12月31日	1月7日	12月31日

2. 調査結果

意向調査結果は以下に示すとおりである。

なお、アンケートの回収率は表 0.3 に示すとおりであり、約 0.6~1.8%となっていた。

表 0.3 各市別意向調査(アンケート)回収率

(4) あなたご自身のことについて

1) 性別

回答者の性別について、3市における回答者の約 66%は男性であった。



図 0.1 回答者の性別

2) 年齢

回答者の年齢について、3市で回答が最も多かったのは「60歳代」であった。次に多かったのは、淡路市及び南あわじ市では「50歳代」、洲本市では「70歳代」であった。3市において、回答者の約 65%は 60歳以上であった。

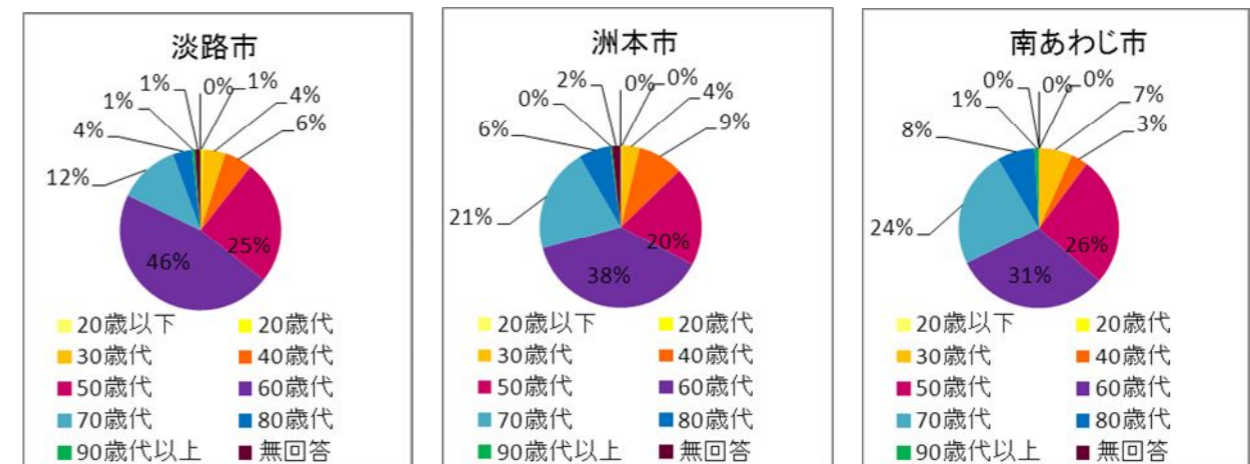


図 0.2 回答者の年齢層

3) 家の造り

3市において、回答者の約 94%が一戸建てに住んでおり、マンション等の集合住宅に住んでいるとした回答者の割合は極めて少なかった。

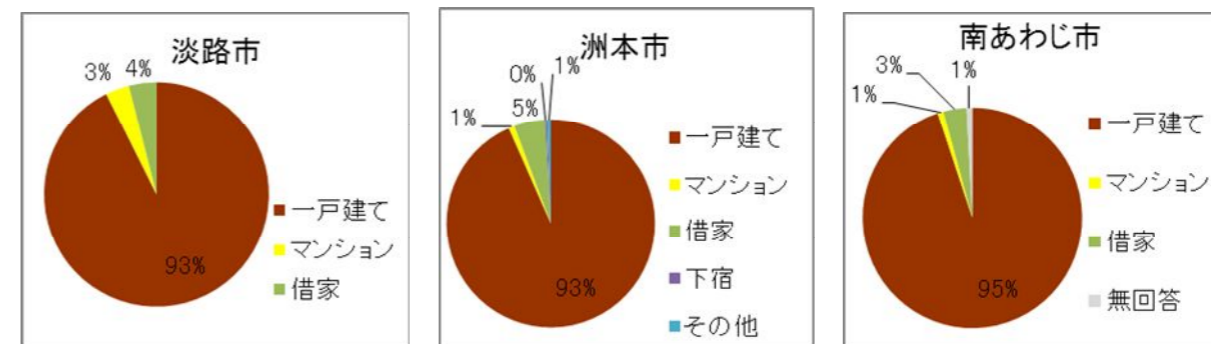


図 0.3 回答者の住まい

4) 太陽光発電設置の有無

現在、「太陽光発電を設置していない」とした回答者は全体の約 86%であり、「太陽光を設置している」割合を大きく上回っていた。

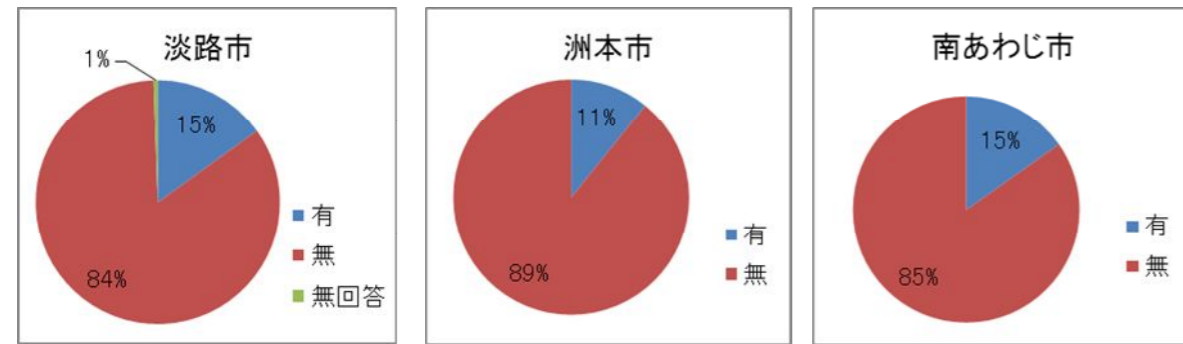


図 0.4 太陽光発電設置状況

5) 太陽光発電設置予定の有無

3市において、今後5年以内に太陽光発電を設置する予定があるとした回答は全体の約10%であった。なお、太陽光発電設置の予定があるとした回答は、3市の中で南あわじ市が最も高かった。

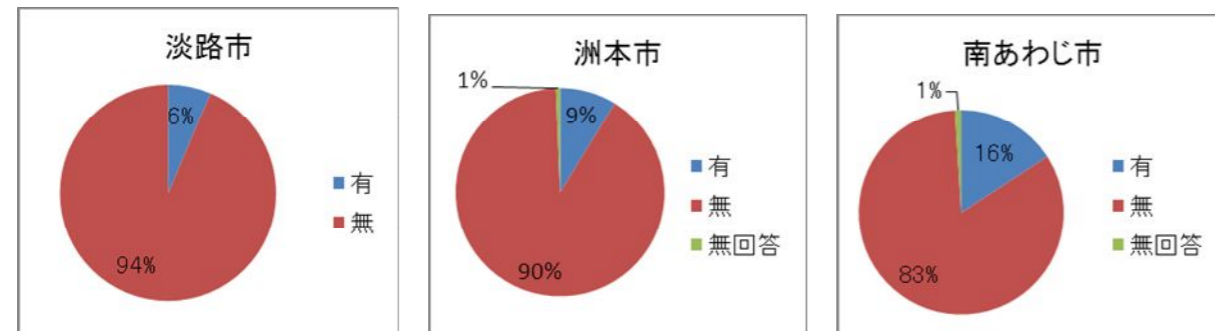


図 0.5 今後5年以内に太陽光発電の設置の有無

6) 太陽光発電を設置しない理由

3市において太陽光発電を設置しない理由として最も回答数が多かったのは「高価格」であり、全体の約50%を占めていた。南あわじ市においては、「興味なし」の回答が3市の中で最も少なく、太陽光発電設置への関心は他2市と比較して高いと考えられる。

なお、「その他」の理由としては、「高齢」、「塩害が心配」、「電気使用量が少ない」、「屋根の景観が悪くなる」等の意見が寄せられた。

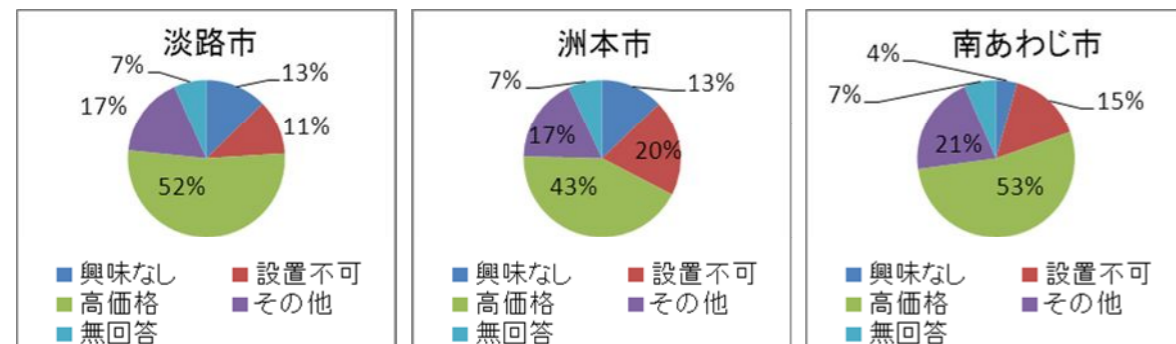


図 0.6 太陽光発電を設置しない理由

(5) 市民共同発電所について

1) 市民共同発電所への興味の有無

市民共同発電所への興味について、「興味がある」と答えた割合は3市で24%~41%(平均32%)であり、そのうち最も割合が高かったのは南あわじ市であった。また、「興味がある」と「どちらともいえない」を併せると、その割合は64%~69%(平均67%)となり、回答者は市民共同発電所について少なからず関心を持っていると考えられる。

また、市民共同発電所への興味について「どちらともいえない」が全体の約30%を占めていたのは、市民共同発電所に関する情報が少なく、内容が把握しにくいためと考えられた。

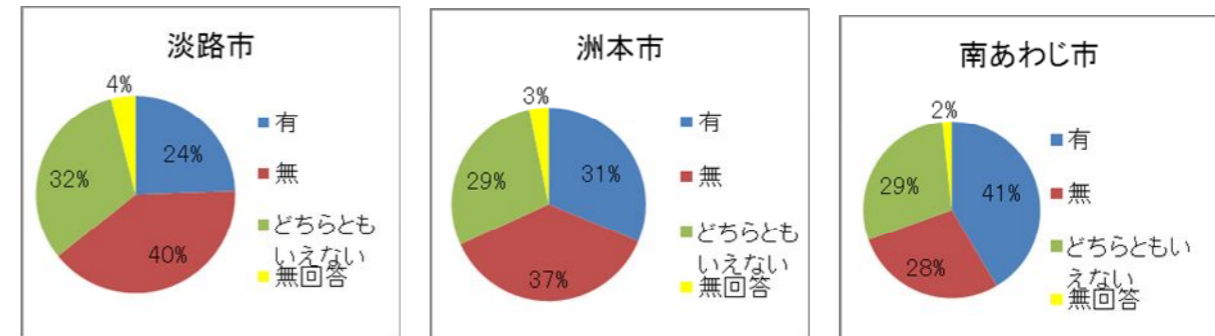
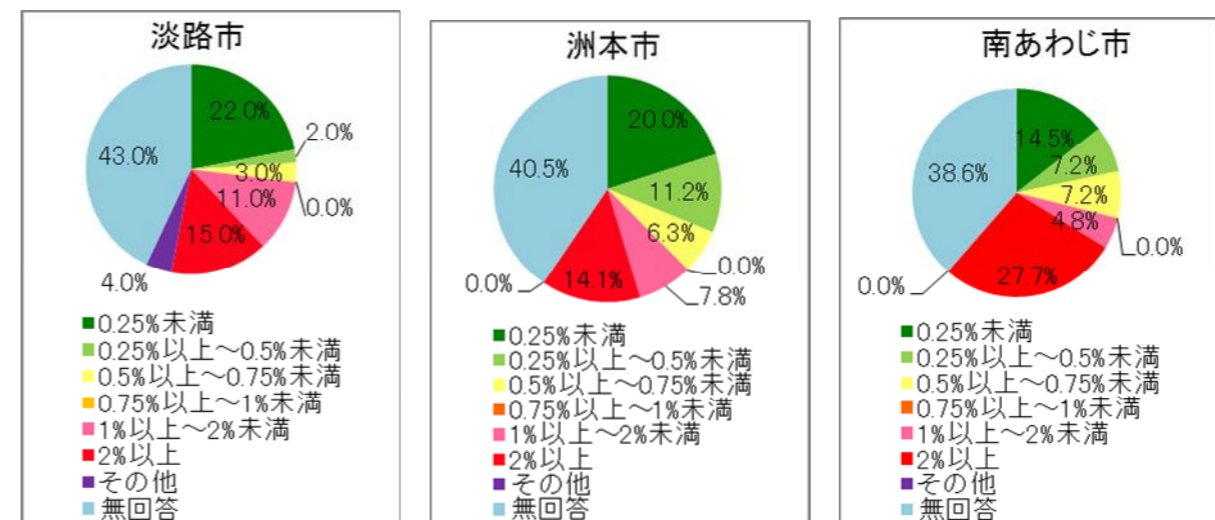


図 0.7 市民共同発電所への興味

2) 希望する利率

3市において市民共同発電所へ出資してもよいと考える利率について、「0.25%未満」及び「2%以上」がそれぞれ約19%を占めており、回答を大別すると金融機関の利率と同等もしくは高金利を求める回答に2分された。



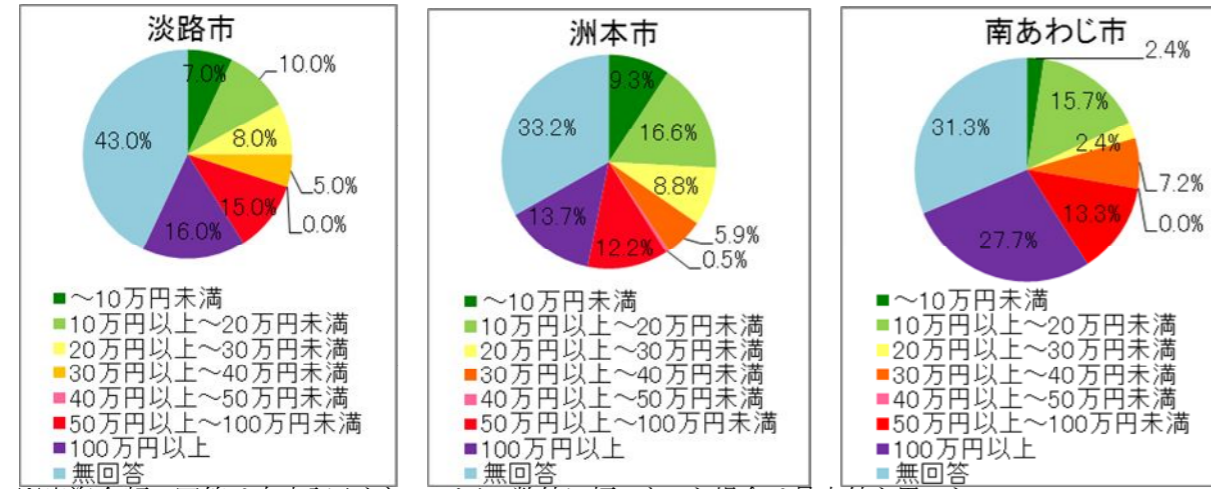
※希望利率の回答は自由記入となっており、数値に幅のあった場合は最大値を用いた。

図 0.8 市民共同発電所へ出資してもよいと考える利率

## 3) 希望する出資金額

市民共同発電所へ出資してもよいと考える金額について、3市で最も回答数が多かったのは16.0%～27.7%(平均約19%)の「100万円以上」となっており、次に10.0%～16.6%(平均約14%)の「10万円以上20万円未満」となっていた。

なお、3市で最も回答数が少なかったのは「40万～50万円未満」であった。



※出資金額の回答は自由記入となっており、数値に幅のあった場合は最大値を用いた。

図 0.9 市民共同発電所へ出資してもよいと考える金額

## 4) 配当の還元方法について

配当の還元方法について、回答者の50%～55%(平均53%)は「現金」であり、「地域振興券等」の21%(平均21%)を大きく上回った。

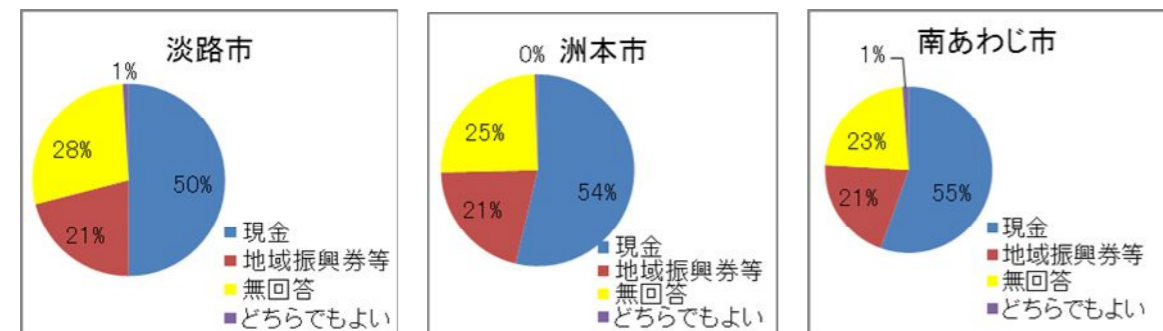


図 0.10 市民共同発電所での還元方法

## 5) 寄付への賛否

配当の一部を寄付とすることについて、3市で最も回答数が多かったのは42%～51%(平均約47%)の「どちらともいえない」であった。

次に多かったのは、20%(平均20%)の「反対」であった。なお、「賛成」とした回答は平均19%であり、「賛成」と「反対」の値は拮抗していた。

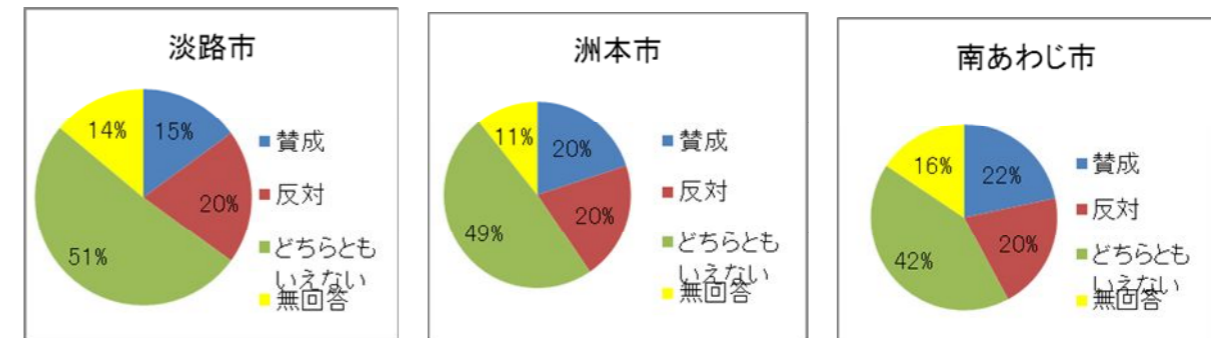


図 0.11 配当の一部を寄付とすることについて

## 1.2 考察

意向調査(アンケート調査)結果から、自宅に太陽光発電を設置するには初期投資が高価格であるため、今後5年間に設置する市民は約10%と多くはないと推察される。

しかし、市民共同発電所の設置について「興味がある」との回答は約32%であり、「どちらともいえない」を併せると約67%であることから、市民の市民共同発電所への興味は少なからずあるものと推察される。

また、出資してもよいと考える利率は「0.25%未満」が約20%、出資金については「100万円以上」とする回答が約19%を占めていたことから、利率は低くても太陽光発電設置のための費用はある程度集まるものと推察される。

これらのことから、市民共同発電所への興味を高めるため市民共同発電所の仕組みや運用内容等を明確にすれば、出資者及び出資金は確保でき、ある程度の設置費用は集まるものと考えられる。